

# トライボロジー会議予稿集の準備について

## Authors Guide of Manuscript Preparation for JAST Tribology Conference

摩擦大・工（正）\*潤滑 太郎 摩擦大・理（非）摩擦 梨代 摩耗工大（正）摩耗 竹刀

Taro Junkatsu\*, Nashiyo Masatsu\*, Shinai Mamou\*\*

\*Masatsu University, \*\*Mamou Institute of Technology

### 1. はじめに

本ファイルは、トライボロジー会議 2016 春東京の予稿集原稿を Microsoft® Word（Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。）で作成する場合のテンプレートです。ファイルに記述された注意点を確認の上、適宜変更を加えながら、ご利用下さい。

### 2. 言語

日本語または英語でご記入ください。（どちらかで統一してください。混在は受け付けません。）  
日本語の場合は講演題目、講演者、連名者、勤務先は英語を併記してください。

### 3. 原稿用紙

本テンプレートを使用して作成して下さい。

マージン : 上下 20mm

: 左右 20mm

### 4. 原稿ページ数

2 ページ（標準）

### 5. 本文の書き方

#### 5.1 標準形式

52 字 57 行 1 段組み

第 1 頁目は以下のようにしてください。

- 第 1 行：和文講演題目（12pt, ゴシック体）
- 第 2 行：英文講演題目（12pt, Times）
- 第 3 行：空行
- 第 4 行：和文講演者・連名者の勤務先略称・会員資格・氏名（本文と同じサイズ, ゴシック体）
  - ✓ 登壇者の氏名の前に\*印, 会員資格のない方は（非）を記入
  - ✓ 複数行にわたる場合には, 順次繰り下げてください
- 第 5 行：英文講演者・連名者氏名（9pt, Times）
  - ✓ 複数行にわたる場合は, 順次繰り下げてください
- 第 6 行：英文勤務先
  - ✓ 勤務先が複数ある場合は上記英文講演者・連名者に\*, \*\*を肩字として付して, カンマで区切って記入してください。
- 第 7 行：空行
- 第 8 行：本文（9pt）
  - ✓ 本文は段組みをせず 1 段で記述ください。図表中の文字が見にくい場合がありますので, ご注意ください。

#### 5.2 式

式は数式エディタを使用して記入して下さい。文字の大きさは本文の文字と同じにし、数式は中央揃えとして下さい。式番号を入力する場合は、右端に括弧（）を付けて番号を記入して下さい。本テンプレートで用意しているスタイル [数式] は、Tab を利用して数式の位置を揃えます。利用に際しては、式の前後に Tab を入力して下さい。

$$\mu = \frac{F}{W} = \tan \theta \quad (1)$$

$$\frac{\partial}{\partial \theta} \left\{ h^3 \frac{\partial p}{\partial \theta} \right\} + \frac{\partial}{\partial z} \left\{ h^3 \frac{\partial p}{\partial z} \right\} = 6\eta U \frac{\partial h}{\partial \theta} \quad (2)$$

本文中で式を呼称する場合には、「式(1)」のように記入して下さい。  
 また、本文中に数式を入れる場合は、 $(a-b)/(c+d)$  や  $y=\exp(t/r)$  のように、一行に収まる表記にして下さい。

### 5.3 図

図の大きさは横幅 80 mm を基準とし、最大横幅は 160 mm とします。図中に用いる用語は全て英語で、最初の文字は大文字とし、英数字かギリシア文字の半角文字で表記して下さい。図中の文字の大きさは 9 ポイント以上にして下さい。ただし、図を引用する場合、図中の用語は引用元のままとし、英語に変換する必要はありません。

グラフの場合、縦軸、横軸の説明は、それぞれの軸に沿って横書きとし、コンマで区切って単位をその後に続けて下さい。縦軸、横軸の説明は英文の最初の文字のみを大文字とします。

写真の場合には、製版可能な鮮明なものを使用し、必要に応じて比較尺度（スケール）を付けて下さい。

図の割付けは、テキストボックスを用い、最上段もしくは最下段にまとめて配置して下さい。その際、Fig. 1 が表記されているテキストボックスをコピーして使用して下さい。配置の仕方は、テキストボックスの書式設定内にあるレイアウトの詳細設定において、余白を基準として、右揃え、左揃え、上、下の設定をして下さい。

図には内容を的確に表わす題目（図名）を英語で付けて、テキストボックス内の図の下に記入して下さい。その際、スタイルは [図表] に設定して下さい。図名が一行に収まる場合には、中央揃え（Fig. 1 の図名を参照）、二行以上の場合には、先頭の文字の位置を合わせた左揃え（Fig. 2 の図名を参照）に手動で設定して下さい。

本文中で図を呼称する場合、文の先頭では「Figure ○」、それ以外は「Fig. ○」として下さい。

### 5.4 表

表の大きさは横幅 80 mm を基準とし、最大横幅は 160 mm とします。表中に用いる文字は全て英数字かギリシア文字の半角文字で表記し、用語の最初の文字は大文字とします。文字の大きさは 9 ポイントとして下さい。

表の割付けには図の場合と同様、テキストボックスを用い、最上段もしくは最下段にまとめて配置して下さい。

表には内容を的確に表わす題目（表名）を英語で付けて、表の上に記入して下さい。その際、スタイルは [図表] に設定して下さい。図名と同様、表名が一行に収まる場合には、中央揃え、二行以上の場合には、先頭の文字の位置を合わせた左揃えに手動で設定して下さい。

本文中で表を呼称する場合、「Table ○」として下さい。

## 6. 予稿集原稿（PDF ファイル）の提出

予稿集原稿のハードコピー 2 部と返信ハガキの事務局への送付は廃止となりました。PDF 原稿を、講演申込み時に自動返送されましたメール本文にある受付番号・パスワードを用い、2014 年 3 月 4 日(火)までにメール本文に示されたリンク先（講演情報編集フォーム URL）にログイン頂き、提出して下さい。

## 7. おわりに

原稿受理後の訂正は認められません。そのまま予稿集作成工程に回します。

Table 1 Sample of table

	Test 1	Test 2	Test 3	Test 4	Test 5	Test 6
Load, N	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0
Sliding speed, m/s	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0
Viscosity, mPa·s	5.0	5.0	10.0	5.0	5.0	10.0

## 文献

- 堀・木村・田中：すべり軸受の潤滑特性，ジュンカツ，2，1 (1970) 16.
- A. B. Collin, C. Reynold & D. E. Fake: In Situ Studies of Wear Process, ASME J. Tribology, 120, 3 (1995) 513.
- 会田・今井：トライボロジーにおける実験計画法 第 2 版，摺永社 (1950) 703.

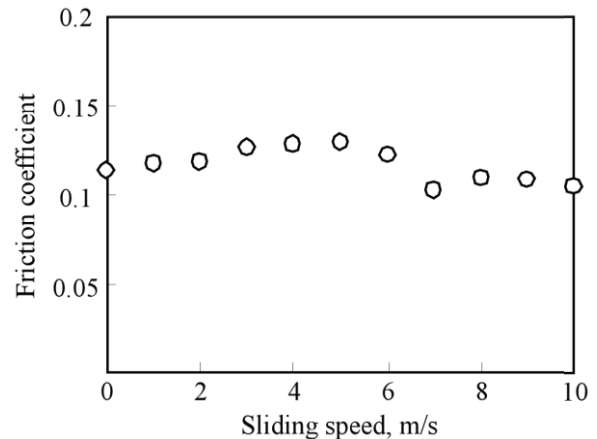


Fig. 1 Sample of figure

Fig. 2 An example of figure caption that is typed in more than 2 lines